

平成20年度 南丹市事業評価表 (平成19年度 実施事業)

事業CD. 5309 事業名: 水産振興事業
 細事業名: _____

政策体系上の位置付け (参考) 平成20年度～ 総合振興計画実施事業

政 策: 第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る
 基本施策: 1 豊かな緑と清流を守る
 主な施策: (1) 森林と河川

所管部署名
 部局名: 農林商工部
 課 名: 商工観光課

科目CD. 1060301 作成日 平成20年10月23日

事業分類: B:ソフト事業
 新規事業 時限事業 (平成 年度迄)

実施根拠 (法令、条例等)
水産業協同組合法、南丹市水産業振興事業補助金交付要綱

事業運営方法 直営 一部委託 全部委託 補助等

委託先 民間 三セク NPO 学校 自治会・地縁団体
 その他 ()

事業概要	
◆ 課題・目的 (どのような課題を解決するために実施した事業なのか)	溪流魚釣り客が増加するよう、河川の環境を整えると共にゴミ等の投棄がされないよう啓発を促進する。アユ、アマゴなどの溪流魚の稚魚を捕食する外来魚を駆除する。
◆ 活動内容 (具体的にどのような活動を行ったのか)	漁業協同組合が実施する清流を守る取り組みに対し支援を行った。 ・河川へのゴミの不法投棄防止看板の設置 ・外来魚、カワウの駆除。
◆ 対 象 (この事業を実施するにあたり、ターゲットとした者(物)は何か)	大堰川、美山川、各漁業協同組合
◆ 結 果 (この事業を実施したことにより、どのような効果または結果が得られたのか)	溪流魚釣り客が増加するよう、河川の環境を整えると共にゴミ等の投棄がされないよう啓発を促進した。アユ、アマゴなどの溪流魚の稚魚を捕食する外来魚を駆除した。

指 標		単位	18実績	19実績	20予算	21計画
活動指標	① 釣り客数 (大堰川)			精 査 途 中		
	② 釣り客数 (美山川)					
	③					
	④					
	⑤					
対象指標	① 各漁業協同組合補助金			精 査 途 中		
	②					
	③					
成果指標	① 釣り客数の増加 (大堰川)			精 査 途 中		
	② 釣り客数の増加 (美山川)					
	③					

市民や議会等からの要望・意見 (要望や意見の内容とその内容を確認した手段は何か)

近隣市町村や民間企業での同種事業の実施状況

近隣市町でも同様の事業は行われている。民間での取り組みはない。

決算(予算)額	(千円)	2,400	3,504	2,332	2,121	
財源内訳	使用料・手数料等	(千円)	0	0	0	0
	国・府支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	2,400	3,504	2,332	2,121
職員従事時間	(人)		0.47			
人件費 ※	(千円)		3,349			
トータルコスト ※	(千円)		6,853			

※人件費は、職員の給与・諸手当で・共済などから、一定の基準に基づき算定したおおよその額です。
 ※人件費およびトータルコストは、あくまでも参考値です。

【公共性の評価】

- (1) 行政の守備範囲 (民間や市以外の機関等が実施すべき事業ではなかったか)
- 法令等により定められた事業 市が実施すべき事業 行政内部の事業
- 民間等での実施は見込めない 民間等での実施も可能

説明: 実施団体への補助金事業が主であるため

- (2) 事業選定の妥当性 (事業の目的や意図が政策や施策の目指す方向にあっているか)
- 施策等の実現に向けた事業 施策等の方向とマッチしていない

説明: 内水面環境を良好に保つための施策である。

- (3) 対象の妥当性 (事業の本質から考えて的を得た対象を定めているか)
- 本質に沿った対象である 的を得た対象となっていない

説明: 趣旨に合致している

【有効性の評価】

- (4) 課題解決への有効度 (目的の達成や、課題解決のために有効的な事業か)
- かなり有効的 当初の予想どおり 予想しても有効的でなかった

説明: 現状維持されている。

- (5) 施策実現に対する有効度 (総合計画の施策実現に対して有効的な事業か)
- かなり有効的 当初の予想どおり 想定よりも有効的でなかった

説明: 計画的に実施されている。

- (6) 成果向上の余地 (施策実現に向け更なる成果向上の余地はあるか)
- 大きい 小さい 無い

説明: 限られた予算の範囲では難しい

- (7) 類似事業との統合・再編・連携の余地 (他の類似事業と統合や連携ができないか)
- 統合や連携等の検討可能 統合や連携はできない 類似事業がない

説明: 同種の事業がない

新たに生じた課題・解決できなかった課題等

特になし

改革案 (いつ、どのような改革を、どのような手段で行うのか)

特になし

【緊急性の評価】

- (8) 課題解決への緊急度 (なぜ早期に実施しなければならなかったか)
- 法令等により期限がある 他事業よりも効果が大い 早期の取り組みが必要
- 他事業よりも優先度が高い 市民の生命・財産を守るため 緊急性は低い

説明: 持続的な取り組みが必要なため

【効率性の評価】

- (9) コスト削減の余地 (事業内容、職員労力、仕事の進め方などから)
- 削減の余地あり 削減の余地なし

説明: 各漁協の積極的な活動に期待する

- (10) 受益者負担の適正 (社会状況等から受益者の負担は適正か)
- 正当な受益者負担 見直す必要あり 負担を強いる事業ではない

説明: 公共的なものであるため

【協働性の評価】

- (11) 市民との協働による事業実施 (協働による実施を検討したか)
- 協働事業には不向き 協働では実施していない 協働で行ったが主体は行政
- 協働で行ったが住民主体は一部 市民等が主体となって実施

説明: 補助主体のため

- (12) 協働事業としての推進の余地 (今後、協働による推進できる余地はないか)
- 余地あり 余地なし

説明: 釣り客のボランティア活動など

所 属 長 総 括 評 価

豊かな清流を守る上で必要不可欠な事業で、継続した取り組みが必要である。今後、豊かな自然を次代に引き継ぐ観点から幅広い市民の協働が必要と考えている。

※事務局使用欄

一次評価	継続 (現状維持)	外来魚の駆除等を進め、河川環境の環境保全を効果的に進めてほしい。
二次評価	継続 (現状維持)	豊かな清流を守るため、継続取り組みが必要である。